

# 第1章 沿革

## 1 小児医療センター建設までの経緯

昭和40年代に入ると、本県は急激な人口増加に伴い、毎年高い出生率が続き、次第に人口構造も変化してきた。一方、公衆衛生の向上や医学及び医療技術の進歩に伴い、疾病構造も次第に変化をみせはじめ、特に、小児の疾病構造については、従来比較的多かった感染症が減少し、未熟児、病的新生児、悪性新生物、先天性代謝異常、アレルギー等の割合が増加する傾向となった。このため、本県でも小児のための特殊、専門の医療機関の必要性が高まってきた。

- |         |   |
|---------|---|
| 昭和48年6月 | 「小児医療研究会」に対し、埼玉県における「小児特殊医療対策調査」を委託                                 |
| 11月     | 県の中期計画に小児医療センター建設の施策を盛り込む。  |
| 昭和49年3月 | 「小児医療研究会」から、小児専門の医療施設の必要性が大きいとの報告を受ける。                              |
| 昭和53年4月 | 衛生部内に小児医療センター準備室を設置   |
| 8月      | 小児医療センター検討委員会を設置  |
| 昭和54年3月 | 小児医療センター建設委員会を設置  |
| 6月      | 小児医療センター建設設備専門委員会を設置  |
| 昭和55年8月 | 小児医療センター起工式挙行、建設工事着工  |
| 昭和57年3月 | 職員公舎建設工事着工  |
| 4月      | 衛生部内に小児医療センター準備事務所を設置   |
| 8月      | 小児医療センター本館完成  |
| 12月     | 埼玉県病院事業設置等に関する条例の一部改正において埼玉県立小児医療センターの設置を決定（12月定例県議会議決、昭和58年4月1日施行） |
| 昭和58年2月 | 病院開設許可  |
|         | 職員公舎建物完成（8棟 136戸）   |
| 3月      | 小児医療センター竣工式挙行   |

## 2 小児医療センター開院から今日まで

- |            |                            |
|------------|----------------------------|
| 昭和58年4月1日  | 埼玉県立小児医療センターオープン（病床数 189床） |
|            | 保険医療機関の指定                  |
|            | 国民健康保険療養取扱機関の指定            |
|            | 生活保護指定医療機関の指定              |
|            | 母子保健指定養育医療機関の指定            |
|            | 結核予防法指定医療機関の指定             |
| 昭和58年5月12日 | 身体障害者指定更生医療機関の指定           |
| 昭和59年4月1日  | 病床数 250床に増床                |
| 昭和60年4月1日  | 病床数 300床に増床                |
| 4月20日      | 職員公舎I棟完成（45戸）              |
| 昭和61年10月1日 | 未熟児新生児搬送車設置導入              |
| 昭和63年6月30日 | ケースワーカー相談室設置               |
| 平成2年3月1日   | 予約専用電話設置                   |
| 3月31日      | 医療ガス機械室増設                  |
|            | 地盤沈下復旧対策工事（南側）             |
| 平成3年3月31日  | RI焼却棟増築工事                  |
|            | 地盤沈下復旧対策工事（北側）             |

平成4年3月31日	MR棟増設工事完了、引受
平成5年3月31日	外来部門等改修工事完了、引受
5月14日	天皇・皇后両陛下御視察
9月11日	10周年記念式典挙行
平成6年3月31日	看護実習棟増設工事完了、引受
平成7年3月31日	空調設備外改修工事完了、引受（未熟児新生児病棟及び重症病室系統等）
平成8年3月31日	空調設備外改修工事完了、引受（ACU-1系統等）
平成10年3月31日	附属大宮保健センター機能移転
4月1日	保健発達棟オープン
10月1日	地域医療支援病院名称承認
平成12年3月31日	厨房改修工事完了、引受
4月1日	小児医療センター医療情報システム本稼働
平成13年3月30日	臨床研修指定病院の指定
平成14年3月26日	救急室改修工事完了、引受
6月3日	小児救急支援事業開始
9月20日	時間外診療対応改修工事完了、引受
平成15年3月10日	慢性疾患児家族宿泊施設整備工事完了、引受
4月1日	慢性疾患児家族宿泊施設オープン
9月27日	20周年記念式典挙行
平成16年2月15日	
～2月17日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受診
3月8日	小児救急遠隔医療システム運用開始
5月17日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定（認定期間：平成16年5月17日～平成21年5月16日）
11月30日	MR I 更新
平成19年3月31日	E S C O 事業工事完了による、熱源機器等の引受
4月1日	E S C O 事業省エネルギーサービス開始
平成21年2月18日	
～2月20日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審
4月1日	院内保育施設（かりよん保育園）オープン（慣らし保育は、3月スタート）
6月5日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(Ver. 5.0)の認定（認定期間：平成21年5月17日～平成26年5月16日）
平成22年3月8日	保険医療機関の指定期間満了に伴う指定更新手続き
平成23年1月28日	未熟児新生児病棟改修工事完了、引受
平成24年3月31日	E S C O 事業省エネルギーサービス終了
4月1日	E S C O 事業設備自主運用開始

### 3 医療法に定める届出承認事項

昭和58年4月1日	診療所開設許可（附属大宮小児保健センター）
4月7日	放射性同位元素及び放射線発生装置の使用許可
昭和59年3月5日	病院開設許可届出事項一部変更許可（昭和59年4月増床分、61床）
3月28日	病院使用許可（昭和59年4月増床分、61床）
昭和60年3月12日	病院開設許可届出事項一部変更許可（昭和60年4月増床分、50床）
3月27日	病院使用許可（昭和60年4月増床分、50床）

昭和62年2月13日	放射性同位元素等の許可使用に係る変更許可（骨塩分析装置の設置）
12月2日	病院開設許可事項一部変更許可（66室 300床を68室 300床に、便所、汚物処理室等改修）
平成元年3月30日	病院使用許可（養護第一病棟及び養護第二病棟 6室20床、便所、汚物処理室等改修）
平成3年3月14日	放射性同位元素等の許可使用に係る変更の許可（有機廃液焼却棟の移築、許可使用量変更）
3月30日	病院使用許可（有機廃液焼却棟移築）
平成4年3月4日	病院開設許可事項一部変更許可（MR棟増設）
3月21日	病院使用許可（MR棟増設）
11月13日	病院開設許可事項一部変更許可（68室300床を69室300床に、外来診察室等改修）
平成5年3月29日	病院使用許可（救急病室 6室新設、養護第一及び第二病棟 6床減少、外来診察室等改修）
9月14日	病院開設許可事項一部変更許可（リニアック装置の更新）
10月6日	病院開設許可事項一部変更許可（69室300床を68室300床に、循環器病棟改修）
10月21日	病院使用許可（69室300床を68室300床に、循環器病棟改修）
12月16日	放射性同位元素等の許可使用に係る変更許可（リニアック装置の更新）
平成6年2月14日	病院使用許可（リニアック装置の更新）
4月15日	病院開設許可事項一部変更許可（薬剤部門改修）
4月21日	病院使用許可（薬剤部門改修）
12月13日	病院開設許可事項一部変更許可（1A・1B病棟プレイルーム、面会指導室を作業療法室に変更）
平成7年1月5日	病院使用許可（1A・1B病棟プレイルーム、面会指導室を作業療法に変更）
3月9日	病院開設許可事項一部変更許可（放射線部第1撮影室、第8検査室のX線装置の変更）
3月29日	病院使用許可（放射線部第1撮影室、第8検査室のX線装置の変更）
平成8年1月16日	病院開設許可事項一部変更許可（診療用エックス線装置の更新（血管撮影室）、血管撮影室の構造の変更）
平成9年2月3日	病院開設許可事項一部変更許可（内科診察室及び内科処置室の概要の変更）
2月12日	病院使用許可（内科診察室及び内科処置室の概要の変更）
	病院開設許可事項一部変更許可（CT撮影室及びCT装置の構造の変更）
3月25日	病院使用許可（CT撮影室及びCT装置の構造の変更）
9月1日	病院開設許可事項一部変更許可及び使用許可（耳鼻咽喉科・リハビリ診察室の移転）
11月18日	病院開設許可事項一部変更許可（保健発達棟・図書室・輸血室・耳鼻咽喉科）
11月27日	病院使用許可（耳鼻咽喉科診察室の改修）
平成10年3月12日	病院使用許可（本館・第2病歴室・視能訓練室・生理検査室・輸血室）
6月12日	病院開設許可事項一部変更許可（X線装置更新等）
6月19日	病院使用許可（X線装置更新等）
6月30日	病院開設許可事項一部変更許可（幼児学童第一病棟改修）
7月6日	病院使用許可（幼児学童第一病棟改修）
7月21日	病院開設事項一部変更許可（内科第一病棟2床増、幼児学童第一病棟2床減）
7月28日	病院使用許可（内科第一病棟2床増、幼児学童第一病棟2床減）
12月7日	病院開設事項一部変更許可（給食施設改修）
平成12年1月4日	病院開設事項一部変更許可（仮設厨房）

1月21日	病院使用許可（仮設厨房）
3月29日	病院開設許可事項一部変更許可（給食施設）
4月13日	病院使用許可（給食施設）
7月14日	病院開設許可事項一部変更許可（建物構造概要及び各病室の病床数の変更）
8月18日	病院使用許可（建物構造概要及び各病室の病床数の変更）
12月25日	病院開設事項一部変更許可（外科第一病棟3床増、外科第二病棟3床増、幼児学童第一病棟2床減、幼児学童第二病棟4床減）
平成13年1月4日	病院使用許可（外科第一病棟3床増、外科第二病棟3床増、幼児学童第一病棟2床減、幼児学童第二病棟4床減）
平成14年2月13日	病院開設許可事項一部変更許可（建物の構造に係る変更）
	病院開設許可事項一部変更許可（診療用X線装置の入替）
4月10日	病院使用許可（診療用X線装置）
4月12日	病院開設許可事項一部変更許可（救急室等の用途変更）
	病院使用許可（特診室B、視能訓練室、患者使用廊下、ME機器置場）
6月6日	病院開設許可事項一部変更許可（幼児学童第一病棟5床減、幼児学童第二病棟3床増、未熟児新生児病棟2床増）
8月23日	病院使用許可（幼児学童第一病棟4床減、幼児学童第二病棟2床増、未熟児新生児病棟2床増）
9月18日	病院使用許可（幼児学童第一病棟1床減、幼児学童第二病棟1床増）
11月27日	病院開設許可事項一部変更許可（保健発達棟生活指導室等の用途変更）
11月29日	病院使用許可（保健発達棟診察室6）
4月10日	病院開設許可事項一部変更届（診療科名の変更 内科→小児科、外科→小児外科、歯科→小児歯科）
8月12日	病床種別届（その他病床300床 → 一般病床300床）
8月13日	病院使用許可（一般病床300床）
9月28日	病院開設許可事項一部変更許可（相談者→相談室・特診室C、視能訓練室→在宅支援相談室、在宅支援ステーション→診断室7）
平成17年3月30日	病院使用許可（相談室・特診室C、診察室7）
11月22日	病院開設許可事項一部変更許可（手術室における据置型X線装置の廃止と移動型X線装置の設置、移動型X線装置の更新（2台）、手術室内操作室→器材室、手術室内暗室→器材室）
12月19日	病院使用許可（移動型X線装置 2台）
12月28日	病院使用許可（手術室内移動型X線装置）
12月18日	病院開設許可事項一部変更許可（第8検査室→第8撮影室への変更及びX線TV装置 第7撮影室のX線TV装置の撤去及び処置室兼待機回復室への変更）
平成19年1月29日	病院開設許可事項一部変更許可（歯科用X線撮影装置の更新）
2月8日	病院使用許可（第8撮影室、X線TV装置、歯科用X線撮影装置）
3月6日	病院開設許可事項一部変更許可（循環器病棟の検査室→作業室、外科第一病棟の看護師室の拡張、医師室の移設、内科第二病棟へのプレイルームの設置）
3月28日	病院使用許可（放射線技術部処置室兼待機回復室、循環器病棟検査室）
平成20年1月6日	病院開設許可事項一部変更許可（外来皮膚科診療室、外来歯科診療室、在宅支援相談室、幼児学童第一病棟、幼児学童第二病棟の浴室改修、歯科用X線撮影装置の移設）
2月15日	病院開設許可事項一部変更許可（手術室に隣接する作業室を倉庫へ変更、講堂内に

	会議室を設置、X線骨密度測定装置の更新)
3月18日	病院使用許可 (X線骨密度測定装置) 病院開設許可事項一部変更許可 (移動型X線撮影装置の設置)
4月18日	病院使用許可 (移動型X線撮影装置)
2月6日	病院開設許可事項一部変更許可 (CT装置の更新)
2月13日	病院使用許可 (CT装置)
4月8日	病院開設許可事項一部変更許可 (講堂内にコンビニエンスストアを設置)
5月21日	病院開設許可事項一部変更許可 (看護実習棟内への発熱外来の設置)
5月25日	病院使用許可 (発熱外来)
7月17日	病院開設許可事項一部変更許可 (発熱外来を廃止し、看護実習棟に戻す)
10月2日	病院開設許可事項一部変更許可 (内科第一病棟の器材室の縮小、内科第二病棟の看護師室改修)
10月21日	病院開設許可事項一部変更許可 (第1撮影室、第3撮影室、第5撮影室のX線装置の更新に伴う配置換え)
12月10日	病院使用許可 (第3撮影室、第5撮影室のX線装置)
12月28日	病院開設許可事項一部変更許可 (形成外科診察室の改修、幼児学童第一病棟の部屋番号変更)
平成22年1月15日	病院使用許可 (形成外科診察室) 病院開設許可事項一部変更許可 (未熟児新生児病棟の改修)
1月22日	病院開設許可事項一部変更許可 (薬剤部の改修工事に伴う調剤室、冷暗室、湿性製剤室、陰圧調整室のレイアウトの変更)
2月1日	病院使用許可 (薬剤部の調剤室、冷暗室、湿性製剤室、陰圧調整室)
4月1日	病院開設届出事項変更届出 (管理者の住所及び氏名の変更)
4月1日	病院開設許可届出事項変更届出 (診療科名の変更)
5月25日	病院開設許可事項一部変更許可 (本館4階副病院長室の改修、保健発達棟2階部長室→副病院長室)
8月31日	病院開設許可事項一部変更許可 (本館1階当直室(1)→清掃員控室)
9月15日	病院開設許可事項一部変更許可 (未熟児新生児病棟の改修)
11月1日	病院開設許可事項一部変更許可 (4階空き部屋→医員室1)
平成23年1月6日	病院開設許可事項一部変更許可 (本館2階手術室の改修)
1月26日	病院開設許可事項一部変更許可 (循環器用X線装置、汎用循環器用X線診断装置の廃止及び循環器系X線診断装置の設置)
3月11日	病院使用許可 (循環器系X線診断装置の設置)
平成23年8月17日	病院開設許可事項一部変更許可 (X線発生装置の更新)
10月27日	病院使用許可 (X線発生装置の更新)
12月26日	病院開設許可事項一部変更許可 (第1, 3, 5撮影室、第6検査室、処置室兼待機回復室の扉の変更)
平成24年1月4日	病院使用許可 (第1, 3, 5撮影室、第6検査室、処置室兼待機回復室の扉の変更) 病院開設許可事項一部変更許可 (看護部長室を副病院長兼看護部長室に名称変更)

#### 4 健康保険法に定める届出事項（施設基準等）

##### ・基本診療料について

昭和59年1月1日	重症者等療養環境特別加算	(重) 第19号
昭和60年11月1日	新生児特定集中治療室管理料1	(新1) 第1号
平成13年3月1日	診療録管理体制加算	(診療録) 第16号
平成16年4月1日	臨床研修病院入院診療加算	(臨床研修) 第5号
平成18年11月1日	褥創患者管理加算	(褥) 第284号
12月1日	栄養管理実施加算	(栄養管理) 第304号
平成20年4月1日	医療安全対策加算	(医療安全) 第13号
平成22年4月1日	救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	(救急加算) 第81号
	感染防止対策加算	(感染防止) 第4号
	新生児特定集中治療室退院調整加算	(新生児退院) 第5号
	特定集中治療室管理料1	(集1) 第21号
5月1日	医師事務作業補助体制加算	(事務補助) 第77号
平成23年9月1日	新生児治療回復室入院医療管理料	(新回復) 第4号
10月1日	一般病棟入院基本料	(一般入院) 第1720号
平成24年3月1日	小児入院医療管理料1	(小入1) 第2号

##### ・特掲診療料について

平成6年7月1日	高度難聴指導管理料	(高) 第46号
平成8年6月1日	麻酔管理料I	(麻管I) 第17号
平成10年4月1日	大動脈バルーンパンピング法（IABA法）	(大) 第13号
平成11年9月1日	血液細胞核酸増幅同定検査	(血) 第20号
平成12年9月1日	補聴器適合検査	(補聴) 第6号
平成14年4月1日	画像診断管理加算1	(画1) 第6号
平成18年4月1日	小児食物アレルギー負荷検査	(小検) 第2号
	運動器リハビリテーション料（II）	(運II) 第59号
	呼吸器リハビリテーション料（I）	(呼I) 第8号
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(ペ) 第15号
	クラウン・ブリッジ維持管理料	(補管) 第4198号
平成20年4月1日	医療機器安全管理料1	(機安1) 第44号
	検体検査管理加算（I）	(検I) 第64号
	遺伝カウンセリング加算	(遺伝カ) 第2号
	無菌製剤処理料	(菌) 第1号
	脳血管疾患等リハビリテーション料（I）	(脳I) 第17号
	集団コミュニケーション療法料	(集コ) 第21号
7月1日	検体検査管理加算（II）	(検II) 第52号
9月1日	画像診断管理加算2	(画2) 第59号
平成21年2月1日	冠動脈CT撮影加算	(冠動C) 第14号
	心臓MRI撮影加算	(心臓M) 第16号
7月1日	頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る）	(頭移) 第4号
平成22年4月1日	CT撮影及びMRI撮影	(C・M) 第22号
	運動器リハビリテーション（I）	(運I) 第84号
	一酸化窒素吸入療法	(NO) 第2号

	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術掲げる手術	(通手) 第24号
7月1日	神経学的検査	(神経) 第29号
9月1日	薬剤管理指導料	(薬) 第23号
平成23年4月1日	抗悪性腫瘍剤処方管理加算 輸血管理料Ⅱ	(抗悪処方) 第46号 (輸血Ⅱ) 第72号

・その他について

昭和59年12月1日	入院時食事療養Ⅰ	(食) 第267号
平成23年2月14日	酸素の購入価格に関する届出	(酸単)

## 5 専門医教育施設等の認定（更新状況）

昭和59年4月7日	(社)日本整形外科学会認定医研修施設	
昭和60年10月2日	日本胸部外科学会認定医研修施設（平成18年1月1日～平成23年12月31日）	
昭和61年1月1日	日本麻酔学会麻酔指導病院（平成13年4月1日～平成23年3月31日）	
4月1日	(社)日本病理学会登録施設（平成21年4月1日～平成23年3月31日） 日本小児外科学会専門医育成施設（平成23年4月1日～平成28年3月31日） (社)日本泌尿器科学会専門医教育施設（平成23年4月1日～平成28年3月31日） (社)日本医学放射線学会放射線診断専門医修練機関 （平成16年4月1日～平成19年3月31日） (社)日本医学放射線学会核医学診療専門医修練機関 （平成16年4月1日～平成19年3月31日）	
平成元年8月4日	(社)日本脳神経外科学会専門医指定訓練場所（平成23年1月～平成23年12月）	
平成3年3月15日	日本人類遺伝学会臨床遺伝学認定医研修施設（平成14年4月1日～平成17年3月31日）	
4月1日	(社)日本腎臓学会研修施設（平成23年4月1日～平成28年3月31日）	
10月1日	(財)日本眼科学会専門医研修施設（平成23年10月1日～平成25年9月30日）	
平成6年1月21日	(社)日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設（平成21年4月1日～平成24年3月31日）	
3月12日	(社)日本形成外科学会認定医研修施設（平成6年3月12日～期限無し）	
平成7年4月1日	日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士研修施設 （平成14年4月1日～平成24年3月31日） 日本周産期・新生児医学会専門医暫定研修施設 （平成16年4月1日～平成26年3月31日） (社)日本血液学会認定血液研修施設（平成21年4月1日～平成26年3月31日）	
平成14年4月1日	日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医研修施設 （平成16年5月17日～平成27年3月31日）	
7月7日	(社)日本小児科学会小児科専門医研修施設（平成23年4月1日～平成28年3月31日）	
平成15年3月10日	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 （平成20年4月1日～平成25年3月31日）	
3月13日	(社)日本整形外科学会専門医研修施設（平成15年3月13日～期限無し）	
4月1日	(社)日本形成外科学会教育関連施設（平成15年4月1日～期限無し）	
11月19日	臨床研修指定（平成15年11月19日～期限無し）	
平成16年5月17日	日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設 （平成22年4月1日～平成27年3月31日）	

9月30日	日本てんかん学会認定医(臨床専門医)研修施設 (平成16年10月1日～平成26年9月30日)
平成17年4月1日	日本アレルギー学会教育施設(平成17年4月1日～平成22年3月31日)
12月18日	(社)日本小児科学会小児科専門医研修支援施設 (平成23年4月1日～平成28年3月31日)
平成18年4月1日	日本病理学会研修認定施設(平成23年4月1日～平成25年3月31日) 日本小児神経学会専門医研修施設(平成23年4月1日～平成28年3月31日)
9月1日	日本リウマチ学会教育施設(平成24年9月1日～平成27年8月31日)
平成19年4月1日	(社)日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 (平成19年4月1日～平成25年3月31日)
10月19日	(社)日本感染症学会研修施設(平成20年3月1日～平成25年2月28日)
11月1日	日本がん治療認定医機構認定研修施設(平成19年11月1日～平成24年10月31日)
平成20年4月1日	日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設 (平成20年4月1日～平成25年3月31日)
6月1日	(社)日本アレルギー学会準教育施設(平成20年6月1日～平成25年3月31日)
12月1日	(社)日本外科学会外科専門医制度関連施設(平成24年1月1日～平成24年12月31日)
平成21年4月1日	(社)日本血液学会認定血液研修施設(平成21年4月1日～平成26年3月31日)
平成23年4月1日	(社)日本麻酔科学会認定病院(平成23年4月1日～平成25年3月31日) (社)日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設(平成23年4月1日～平成29年3月31日) 小児血液・がん専門医研修施設(平成23年4月1日～平成28年3月31日)
10月1日	(財)日本眼科学会専門医制度研修施設(平成23年10月1日～平成24年9月30日)



## 第2章 施 設

### 1 敷地及び建物

#### (1) 敷 地

- ア 本館 61,432㎡
- イ 公舎 11,109㎡

#### (2) 建物

##### ア 本 館

名 称	構 造	延べ面積	備 考
本 館	鉄筋コンクリート4階建	25,935.31㎡	本館の内訳
看 護 実 習 棟	鉄筋コンクリート2階建	139.50㎡	病院本棟 19,837.04㎡
排水処理管理棟	鉄筋コンクリート2階建	119.47㎡	MR棟 321.31㎡
医療ガス機械室	鉄筋コンクリート平屋建	84.00㎡	講堂棟 584.29㎡
RI焼却棟(含動物舎)	鉄筋コンクリート平屋建	50.00㎡	食堂棟 290.14㎡
医療ガスボンベ室	コンクリートブロック平屋建	36.00㎡	エネルギー1,043.60㎡
特殊ガスボンベ室	コンクリートブロック平屋建	6.00㎡	保健発達棟3,858.93㎡
ガスメーター室	コンクリートブロック平屋建	8.75㎡	
車 庫	鉄筋平屋建(2カ所)	160.42㎡	公用車、搬送車
自 転 車 置 場	鉄筋平屋建(2カ所)	56.80㎡	
バスストップ・倉庫		65.79㎡	
廃棄物保管庫	コンクリートブロック平屋建	30.00㎡	

##### イ 公 舎

名 称	構 造	延べ面積	備 考
部 長 公 舎	鉄筋コンクリート2階建	211.23㎡	D棟2戸
医師公舎(世帯用)	〃 3階建	723.43㎡	H棟10戸
医師公舎(単身用)	〃 3階建	593.64㎡	G棟15戸
看 護 師 公 舎	〃 3階建	2,385.87㎡	A・B・C棟96戸
〃	〃 4階建	1,117.89㎡	I棟45戸
医 療 職 員 公 舎	〃 3階建	868.56㎡	F棟12戸
ポ ン プ 室	鉄筋コンクリート平屋建(3カ所)	61.98㎡	
自転車置場・車庫・物置	鉄骨平屋建	234.55㎡	

##### ウ 院内保育所

名 称	構 造	延べ面積	備 考
かりよん保育園	鉄筋コンクリート2階建	123.52㎡	旧E棟

### 2 附属設備

設 備 名	設置機械	数量	形 式 及 び 性 能
電 気 設 備	受 電 設 備	2	6kV 契約電力1,496kW 受電設備容量6,180kVA
	発 電 機	3	ガスタービン発電機 6kV 1,000kVA ディーゼル発電機 200V 146kVA 常用ガスエンジン発電機 6kV 350kW
	配 電 方 式		動力3φ 420V及び220V 電灯1φ 210/105V
弱 電 設 備	電 話	1	電子交換機 蓄積プログラム制御方式 636回線
	電 気 時 計	2	中継台 電子式据置型 電話機383台 院内PHS370台
	イ ン タ ー ホ ン	23	水晶発振式親時計2台 10回線、4回線 子時計287台、47台 相互式6 親子式17

設備名	設置機械	数量	形式及び性能
	ナースコール ページング	7 1	親機10局、20局、30局 子機146 呼出局数200 交換機8 通話線 ナースコール連動16回線 子機（電池式）150台
搬送昇降設備	エアシューター 自走台車 エレベーター	1 1 6	5系統43ステーション 24ステーション コンテナ51台 寝台用1,000kg60m/分×1 乗用750kg60m/分×2、 900kg45m/分×1、人荷用750kg60m/分×1 ダムヴェーター50kg30m/分×1
空気調和設備	ボイラー 吸収式冷凍機 スクルー冷凍機 吸収式冷温水発生機 クーリングタワー 空気調和機 パッケージ ファンコイル 再熱器 全熱交換器 給気ファン 排気ファン 環気ファン	3 1 2 3 6 45 179 293 19 7 17 59 11	貫流ボイラ 2,000kg/h×3 0.981MPa 300USRT 蓄熱槽800トン 150USRT×2 冷房100RT（米）・暖房253,000kcal/h×2 冷房67.8RT（米）・暖房147,000kcal/h×1 冷却能力 350RT×2 30RT×1 20RT×1 100RT×2 8時間×12系統 24時間×6系統 年間系×10系統 第1・2・3・5・6手術系統 厨房×4系統 訓練棟×9系統
衛生設備	受水槽 高架水槽 給湯ボイラ 貯湯槽 排水槽 排水処理槽 RI処理槽 薬品排水処理槽 液酸タンク 医療ガス	4 4 2 4 4 1 1 1 1 1	上水用140m <sup>3</sup> ×2 10m <sup>3</sup> ×2 中水用 40 m <sup>3</sup> ×1 上水用20m <sup>3</sup> ×2 中水用7m <sup>3</sup> ×2 100,000kcal/h×2 4 m <sup>3</sup> ×2 1 m <sup>3</sup> ×2 ホルマリン2m <sup>3</sup> ×2 現像・定着用2m <sup>3</sup> ×2 活性汚泥法長時間ばっ気方式+3次処理390m <sup>3</sup> /日 2,400人槽 RIモニタリングシステム付 貯留槽25m <sup>3</sup> ×4 中和 移動床上向流連続濾過方式 2,770ℓ 酸素、笑気、空気、窒素、吸引
防災設備	スプリンクラー 屋外消火栓 ハロン設備 防排煙設備 自動火災報知器 ガス漏れ火災警報 非常用放送設備 誘導灯 非常照明	2 1 1 2 2 2 1 1 1	ポンプ900ℓ/分 72m 18.5kW ヘッド2044 ポンプ720ℓ/分 70m 18.5kW ヘッド323 補助散水栓 8 ポンプ750ℓ/分 53m 15kW 放水口26 748ℓ 噴射ヘッド18 連動操作盤80回線 排煙口、ダンパー、防火戸100 連動操作盤（自火報盤と複合）排煙窓、防火戸、防火シャッター122 受信盤P型1級190回線 表示盤×8 感知器927 受信盤GR型複合盤255回線 感知器158 受信機G型AAP-50回線 検知機54 受信機（自火報盤と複合） 検知器 6 720W 20回線 スピーカー407 避難口誘導灯128 通路誘導灯100 階段通路誘導灯27 階段灯 9 ダウンライト1,046
災害用給水設備		1	用水装置（取水量300m <sup>3</sup> /D）、池井、貯槽×2、発電機（45kVA）

### 3 主要備品

購入額1,000万円以上の主要備品等は、次のとおりである。

(平成24年3月31日現在)

品名	型式	数量	備考
[検査]			
脳波計	E E G-1218 (日本光電)	1	
組織中間代謝物測定装置	デジタルNMR AVANCEIII400Nanobay (ブルカー)	1	
アミノ酸分析装置	J L C-500/V (日本電子)	1	
電子顕微鏡システム	J E M-1220 (HC) (日本電子)	1	
超音波診断装置	S Y S T E M F I V E (アロカ)	1	
循環器用超音波診断装置	G E V i v i d E 9 (GEヘルスケア)	1	
循環器用超音波診断装置	G E V i v i d 7 (GEヘルスケア)	1	
病理蛍光顕微鏡	B X 60-34 (オリンパス)	1	
電子共鳴解析装置	J E S-FR100 (日本電子)	1	
定量遺伝子増幅装置	7900HT Fast リアルタイム PCRシステム (アプライドバイオ)	1	
血液製剤照射装置	I B L-437C-1 (C I S バイオ・インターナショナル)	1	
誘発電位筋電図装置	M E B (日本光電)	1	
血液細胞自動分類装置	H E G-50S (シスメックス)	1	
フローサイトメーター	E P I C S A L T R A (ベックマンコールター)	1	
多項目自動血液血球装置	X E-A l p h a N (シスメックス)	1	
脳波計	E E G-1518 (日本光電)	1	
電子顕微鏡用 CCD カメラシステム	BIOSCANカメラシステム (日本電子データム)	1	
シーケンシングシステム	D N A シーケンサー3130x1-200システム (アプライドバイオ)	1	
[放射線]			
胸腹部X線撮影装置	K X O-200A (東芝メディカル)	1	
多用途X線撮影装置	K X O-80G (東芝メディカル)	1	
X線撮影装置システム	U D 150 L-40 (島津製作所)	1	
血管X線撮影装置	A l l u r a X p e r F D 10/10 (フィリップス)	1	
R I モニタリングシステム	N E S O O Y 1 (富士電機システック)	1	
R I A 試料測定装置	コブラクワンタム5010 (パッカード)	1	
多用途患者記録装置	ミンゴグラフMG7 (フクダ電子)	1	
全身コンピュータ断層撮影装置 (X線CT装置)	Definition AS+128スライスCT (シーメンス)	1	
シンチレーションカメラシステム	O P E N M U L T S P E C T 3 E-CAM (シーメンス)	1	
超音波診断装置	L o g i c 7 D i s c o v e r y I I L C D (GE)	1	
ガンマカメラシステム	S y m b i a E (シーメンス)	1	
超音波診断装置	L O G I Q E 9 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	
リニアック治療装置	E X L-15DP (三菱電機)	1	
磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	Intera Achieva 1.5T Nova Dual (フィリップス)	1	
生体分子解析診断装置	遺伝子発現トータルシステム (アジレント)	1	
多用途X線透視撮影装置	C V I S I O N S A F I R E (島津製作所)	1	
[病棟]			
患者監視装置システム	セントラルモニタ W E P-5208 (日本光電)	2	
患者監視装置	C N S 8200 (日本光電)	1	
患者監視装置	M 1 2 0 5 A (フィリップス)	1	
患者監視装置	B S M-4101他 (日本光電)	1	
超音波診断装置	H D 11 X E (フィリップス)	1	
超音波診断装置	S O N O S 7500 (フィリップス)	1	
色素レーザー	フォトジェニカV (ジェイメック)	1	

品名	型式	数量	備考
[手術]			
人工心肺装置	S5 (スタッカー)	1	
人工心肺装置	TOWNOKコンポーネントシステム (トノクラ)	1	
補助循環装置	SP1000DX (トノクラ)	1	
手術用顕微鏡	OPMI PENTERO (カールツァイス)	1	
手術室用移動式X線透視装置	BV pulsera 12 (フィリップス)	1	
眼科用同軸顕微鏡	OPMI VISU 160 (カールツァイス)	1	
患者監視装置	M1167A他 (フィリップス)	1	
患者監視装置	M1166A (HP)	1	
超音波診断装置	Pro Sound SSD-α7 (アロカ)	1	
高圧蒸気滅菌装置	Z3R-G12W (サカ精器)	1	
プラズマ滅菌システム	ステラッド100S PSII 19375 (ジョンソン&ジョンソン)	1	
低温プラズマ滅菌システム	ステラッド100 (ジョンソン&ジョンソン)	1	
小児内視鏡診療システム	EVIS-230 (オリンパス)	1	
内視鏡手術システム	Endo ALPHA手術システム (オリンパス)	1	
電子内視鏡システム	ビデオシステムセンター CV260(B) (オリンパス)	1	
X線透視装置	BV Parusera (フィリップス)	1	
[保健発達]			
三次元動作解析装置	モータス (ピーク)	1	
フォースプレートシステム	LG6-4SERIES1000 (アムティ)	1	
DNAシーケンサーシステム	ABI PRISM310 (パーキンエルマー)	1	
行動観察装置	WV-C S400他 (ナショナル)	1	
行動観察システム	WV-C S400他 (ナショナル)	1	
研修室AVシステム	ナショナル特型他 (ナショナル)	1	
[その他]			
薬物血中濃度測定装置	アキトクアナライザー i1000SR (アボットジャパン)	1	
注射薬自動払出システム	UNIPUL-4000 (トーショー)	1	
X線フィルム保管庫	システムトリーブ (イトーキ)	2	
医療情報システム	富士通	1	
小児救急遠隔医療支援システム	東日本電信電話	1	
ストレージ(フィルムレス化機器の一部)	ディスク装置 SAM-S (HP)	1	

## 4 小児医療センター医療情報システム

### (1) 経緯

- 昭和58年4月 埼玉県病院総合情報システムの共同利用を開始する。
- 平成9年 小児医療センター医療情報システムの調査を実施する。
- 平成10年10月 システム開発に着手する。
- 平成12年2月 システムを切替える。
- 平成12年4月 システムの本格的な運用を開始する。
- 平成18年3月 次期システム基本設計をまとめる。
- 平成18年11月 次期システム開発に着手する。
- 平成19年9月 運用開始

### (2) システム構成の概要

小児医療センター医療情報システムは、医療の質的向上、患者サービスの向上を図るため、病院の内外に発生する種々の医療情報を、迅速かつ的確に処理・蓄積し、医療現場や各関係部門へ瞬時に正確な情報を提供するものである。また、膨大な情報を一元的に利用することで、医学研究の促進、病院経営の改善などにも生かしていくものである。

システムは、ネットワークの構成上から、業務系システムと診療支援系システムに分けられる。業務系システムは、院内のみのネットワークにより、医師等の診療行為を入力するオーダーリングシステムをはじめ、受付・会計部門や検査、放射線、薬剤などの各部門のサブシステムが相互に連携している。また、診療支援系システムは、県庁LANと接続しており、病院内外の情報交換を行う診療支援サブシステムや図書館サブシステムにより構築される。

システムの形態は、各端末からのオーダ業務や部門業務における情報の入出力が円滑に動作するクライアント/サーバ型のシステムを採用し、また、オーダ等情報の入出力応答速度の低下を招かぬよう、高速LAN（ギガビットイーサ）により構築されている。

#### ※業務系各部門サブシステム

医事会計サブシステム、薬剤部サブシステム、臨床検査サブシステム（検体、細菌）、輸血検査サブシステム、生理機能検査サブシステム、病理検査サブシステム、放射線検査サブシステム、RI検査サブシステム、医用画像サブシステム、看護支援サブシステム、保健発達部門サブシステム、手術部門サブシステム、栄養部サブシステム、栄養指導サブシステム、物流管理サブシステム（中材、薬剤を含む）、MEサブシステム、病歴管理サブシステム、経営支援サブシステム、研究支援サブシステム、遺伝検査サブシステム、在宅支援サブシステム、待ち時間対策サブシステム

### (3) オーダリングシステムの概要

オーダーリングシステムとは、診療の現場で、医師や看護師が直接パソコンを操作し、処方や検査などのオーダ（従来の処方箋や依頼伝票にあたるもの）を入力するシステムである。入力されたオーダ内容は、薬剤部や検査部門などの関連部門に決められたタイミングで送信されるとともに、医事会計に伝達され、診療報酬請求が行われる。

### (4) 現行システムへの開発経緯

平成12年4月に稼働した現行システムは、年々老朽化が進み、今後も安定的な病院運営を継続するために、システム機器の耐用年数を超える平成18年度には、次期システムへの移行が必須であった。

次期システムは、医療情報システム委員会において、平成18年3月システム基本設計（システム要求仕様書）をまとめ、病院局経営管理課により「総合評価方式による一般競争入札」が実施され、11月から開発を着手し、平成19年9月から運用を開始した。

# 第3章 組織・運営

## 1 機 構



### 職種別職員数 (現員)

(平成24年4月1日)

		小児医療センター
病 院	医 師	66
	歯 科 医 師	1
	看 護 師	363
	診療放射線技師	17
	臨床検査技師	30
	薬 剤 師	14
	栄 養 士	4
	理学療法士	5
	作業療法士	3
	視能訓練士	2
	臨床心理士	3
	臨床工学技士	5
	言語聴覚士	2
看 護 助 手	5	
小 計	520	
事 務 局	事 務	21
	技師(電気)	1
	技師(設備)	2
	医療社会事業職	2
	医療事務職	2
小 計	28	
合 計	548	

(平成23年4月1日)

		小児医療センター
病 院	医 師	69
	歯 科 医 師	1
	看 護 師	357
	診療放射線技師	17
	臨床検査技師	28
	薬 剤 師	13
	栄 養 士	4
	理学療法士	5
	作業療法士	3
	視能訓練士	2
	臨床心理士	3
	臨床工学技士	5
	言語聴覚士	2
看 護 助 手	6	
小 計	515	
事 務 局	事 務	20
	技師(電気)	1
	技師(設備)	2
	医療社会事業職	1
	医療事務職	2
小 計	26	
合 計	541	

役職者及び医師名簿

(平成24年4月1日)

役職名	氏名	備考
病院長	中村 讓	心臓血管外科
副病院長兼医療安全管理室長	花田 良二	血液腫瘍科
副病院長	西本 博	脳神経外科
副病院長	大石 勉	感染症免疫科
副病院長兼看護部長	西ヶ谷 正子	
総合診療科長兼部長	鍵本 聖一	
〃 副部長	窪田 満	
〃 医員	萩原 真一郎	
未熟児新生児科長兼部長	清水 正樹	
〃 医長	菅野 啓一	
〃 医長	宮林 寛	
〃 医長	川畑 建	
〃 医員	関野 将行	
〃 医員	林 至恩	
〃 医員	芥川 香奈	
代謝内分泌科長兼部長	望月 弘	
〃 副部長	会津 克哉	
〃 医長	河野 智敬	
腎臓科医長(診療科長)	藤永 周一郎	
〃 医長	伊藤 亮	
感染免疫アレルギー科長兼副部長	田中 理砂	
〃 医長	佐伯 敏亮	
〃 医長	高野 忠将	
血液腫瘍科長兼副部長	康 勝好	
〃 医長	加藤 元博	
〃 医長	林 真由美	
〃 医員	荒川 ゆうき	
遺伝科長兼部長	大橋 博文	
〃 医長	清水 健司	
精神科医長(診療科長)	舟橋 敬一	
〃 医長	平山 優美	
神経科長兼部長	浜野 晋一郎	
〃 副部長	田中 学	
〃 医長	菊池 健二郎	
循環器科長兼部長	小川 潔	
〃 副部長	星野 健司	
〃 副部長	菱谷 隆	
〃 医長	菅本 健司	
〃 医員	齋藤 千徳	
放射線科長兼部長	小熊 栄二	
〃 医長	佐藤 裕美子	
〃 医員	叶 篤浩	
外科長兼部長	内田 広夫	
〃 副部長	川嶋 寛	
〃 医長	田中 裕次郎	
〃 医長	益子 貴郎	
〃 医員	出家 亨一	
整形外科科長(診療科長)	平良 勝章	
〃 医長	根本 菜徳	
〃 医長	間世 田優文	
形成外科長兼部長	渡邊 彰二	
〃 医長	渡辺 あずさ	
脳神経外科長兼副部長	栗原 淳	
〃 医員	谷地 一成	
心臓血管外科長兼部長	野村 耕司	
〃 医長	篠原 玄	
〃 医員	山本 裕介	
泌尿器科長兼部長	多田 実	
〃 副部長	小林 堅一郎	
眼科医長(診療科長)	神部 友香	
耳鼻咽喉科長兼部長	浅沼 聡	
〃 医長	安達 のどか	
麻酔科長兼副部長	水戸野 裕之	
〃 医長	濱屋 和泉	
病理診断科長兼部長	岸本 宏志	
歯科長兼副部長	高橋 康男	

役職名	氏名	備考
保健発達部長	川野 豊	アレルギー科
〃 副部長	南谷 幹之	神経科
〃 副技師長	吉岡 明美	理学療法士
〃 副技師長	岡田 洋一	作業療法士
〃 副技師長	小林 順子	視能訓練士
放射線技術部長	松田 幸広	
放射線技術部副部長	原田 昭夫	
放射線技術部副技師長	山本 英明	
〃	榎戸 義浩	
〃	矢部 仁	
〃	荒井 孝	
〃	松本 慎	
〃	山口 明	
検査技術部長	飯田 昌男	
検査技術部副部長	蟹川 節子	
〃 副部長	小野 善栄	
検査技術部副技師長	矢島 美鈴	
〃	鈴木 みどり	
〃	遠藤 法男	
〃	横田 進	
〃	大谷 真澄	
〃	松下 大介	
〃	金子 美晴	
〃	河原 井 敦子	
薬剤部長	岩崎 文男	
薬剤部副部長	中村 益美	
薬剤部副部長	石田 泰嗣	
薬剤部副技師長	久保 木 輝雄	
〃	嶋崎 幸也	
〃	齋藤 恭子	
栄養部副部長	砂押 恵美子	
栄養部副技師長	前川 哲雄	
看護部副部長	田代 弘子	
〃	黒田 京子	
〃	伊藤 美佐子	
看護師長	渡部 和子	幼児学童第一病棟
〃	上嶋 仁美	幼児学童第二病棟
〃	高橋 よね子	循環器病棟
〃	水村 こず枝	外科第一病棟
看護副部長	上原 浩子	〃
看護師長	秋山 桜子	外科第二病棟
〃	楮 本 生 恵	内科第一病棟
〃	松永 晴子	内科第二病棟
〃	酒卷 恵美子	未熟児新生児病棟
看護副部長	上澤 克昭	〃
〃	株崎 雅子	〃
看護師長	田邊 尚子	手術室兼中央材料室
〃	大内 明子	外来・救急
看護副部長	水村 たか子	〃
在宅支援相談担当主査	曾我 貴子	在宅支援相談担当
医療安全管理室主査	中田 尚子	医療安全管理者
医療機器職員研修担当副技師長	松井 晃	
事務局長	北村 芳之	
副局長兼管理部長	猪俣 孝一	
総務職員担当主査	磯崎 秀夫	
会計担当主査	片柳 久彦	
管財担当主幹	武藤 規雄	
管財担当主査	石川 博紀	
業務部長	増田 健	
医事経営担当主査	平野 朋美	医療ソーシャルワーカー
医事経営担当主査(経営)	木村 裕行	
医事経営担当主査	黛 哲男	医療事務
医事経営担当主査	小野 優	医療事務
医事経営担当主査	鈴木 安徳	
用度担当主査	神山 静男	

## 2 病棟構成

平成22年度の病棟構成は、次のとおりである。

(平成23年4月1日現在)

病棟名	病床数	開棟年月日	構成
幼児学童第一病棟(1A)	38床	昭和58年4月1日	8床室4、1床室6
幼児学童第二病棟(1B)	46床	昭和60年4月1日	8床室5、1床室6
救急病室(1C)	6床	平成5年4月1日	6床室1
循環器病棟(2A)	30床	昭和58年4月1日	6床室3、3床室2、1床室2、CCU4床室1
外科第一病棟(2B)	33床	昭和58年4月1日	6床室4、3床室1、1床室2、ICU4床室1
外科第二病棟(2C)	37床	昭和58年4月1日	6床室4、3床室2、1床室3、ICU4床室1
内科第一病棟(3A)	33床	昭和58年4月1日	6床室4、1床室9(うち無菌室2)
内科第二病棟(3C)	35床	昭和59年4月1日	8床室1、6床室3、1床室9
未熟児新生児病棟(3D)	42床	昭和58年4月1日	NICU15、中等床8、回復床17、隔離室2

## 3 診療制度

当センターは、重篤・難治な疾患を対象とした小児専門の三次医療施設であり、また地域医療支援病院であるため、医師の紹介・予約により診療を行っている。したがって、診療を受けるためには、通常は医師に診療情報提供書(紹介状)を書いてもらい、患者の家族が直接電話で診療日等を予約することになっている。ただし、緊急の場合は、医師から当センターの担当医等に直接電話連絡の上、診療情報提供書により診療をすることになっている。

保健発達部門への紹介は、保健機関、福祉機関、教育機関等からの紹介も受けている。

## 4 会計制度

当センターは地方公共団体が設置した病院であるため、地方公営企業法第2条第2項の規定に基づき企業会計により運営している。

## 5 運営協議会

当センターでは、センターの運営について協議するとともに関係医療機関と緊密な連携を図り、センターの適切な運営に資するため、埼玉県立小児医療センター運営協議会を設置していたが、病院局の設置に伴い、平成14年度より県立4病院として合同の埼玉県立病院運営協議会として開催されることとなった。

平成23年度の開催状況及び委員名簿は次のとおりである。

年月日	協議内容	会場
平成23年10月27日	①平成22年度埼玉県病院事業会計決算の概要について ②平成22年度病院別運営状況について ③埼玉県立病院アクションプラン(仮称)の策定について	埼玉県県民健康センター



県立病院運営協議会委員名簿

平成23年10月27日現在

氏名	職名
和田 浩	埼玉県議会福祉保健医療委員会委員長
塩野 正行	埼玉県議会福祉保健医療委員会副委員長
大橋 良一	加須市長
福島 弘文	小鹿野町長
加藤 ユリ	埼玉婦人問題会議事務局長
金井 忠男	埼玉県医師会長
鈴木 伸一郎	埼玉県医師会副会長
橋本 啓一	埼玉県医師会副会長
高梨 邦彦	埼玉県医師会副会長
小谷田 宏	埼玉県歯科医師会副会長
向田 良子	埼玉県看護協会会長
橋本 和弘	東京慈恵会医科大学心臓外科学講座主任教授
野崎 美和子	獨協医科大学越谷病院放射線科教授
清水 俊明	順天堂大学医学部・小児科教授
野村 總一郎	防衛医科大学校副病院長・精神科学講座教授

6 地域医療との連携

当センターの病院部門は、重篤・難治な疾患を対象とした小児専門の三次医療施設であるため、患者はすべて医師からの紹介により受け入れている。したがって、病院運営上特に地域医療機関との連携を図ることが重要である。

そこで、当センターでは、地域医療機関とのより一層の連携を図るため、次のような事業を行っている。

- (1) 各地域の医師（病院・診療所）等に対する、当センターへの紹介・予約方法等のPRの徹底
- (2) 紹介医に対する紹介患者の診療結果等の連絡などアフターケアの充実
- (3) 診療連絡委員会の設置（昭和58年8月から、地域医療機関の医師の代表等を委員とした埼玉県立小児医療センター診療連絡委員会を設置し、地域医療機関との連絡方法等の検討や地域の医師等の参加できる講演会、症例検討会等の企画・立案を行っている。）
- (4) 地域の医師等を対象にした症例検討会（小児疾患集談会）の開催
- (5) 地域の医療機関などを対象とした『小児医療センターだより』の発行
  - 平成23年8月31日に小児医療センターにおいて診療連絡委員会を開催し、小児疾患集談会の開催計画等を協議した。
  - 診療連絡委員会主催により開催された小児疾患集談会は次のとおりである。

開催日	内 容	出席者
第 107 回 平成23年6月10日 場所：小児医療センター	1. 症例検討 ①感染免疫科 ②血液・腫瘍科 2. 基礎講座 形態異常のみかたとDysmorphology	院外 24人 院内 32人 合計 56人
第 108 回 平成23年9月9日 場所：大宮サンパレス	1. 基礎講座 ①心臓血管外科治療の変遷 2. 特別講座 低身長鑑別診断と治療の課題	院外 15人 院内 17人 合計 32人
第 109 回 平成23年12月9日 場所：小児医療センター	1. 症例検討 ①未熟児新生児科 ②腎臓科 2. 基礎講座 がんの分子病態研究の過去・現在・未来	院外 9人 院内 32人 合計 41人
第 110 回 平成24年3月9日 場所：小児医療センター	1. 症例検討 ①総合診療科 ②循環器科 2. 基礎講座 水頭症治療の進捗	院外 19人 院内 38人 合計 57人

### 埼玉県立小児医療センター診療連絡委員会委員名簿

平成23年8月31日現在

(順不同)

	氏 名	職 名
委員長	峯 真 人	岩槻医師会 会長
副委員長	白 井 康 仁	大宮医師会
	権 田 隆 明	浦和医師会 理事
	中 里 豊	大宮医師会
	西 川 潔	川越市医師会
	小 林 敏 宏	熊谷市医師会 理事
	鳥 山 義 仁	北足立郡市医師会 理事
	川 上 哲 夫	上尾市医師会 理事
	前 島 静 顕	南埼玉郡市医師会 会長
	高 木 学	南埼玉郡市医師会 理事
	岡 田 新 司	春日部市医師会 副会長
	志 田 健 二	春日部市医師会
	金 沢 和 俊	埼玉県医師会 常任理事

任期 平成22年4月1日～平成24年3月31日

## 7 センター内会議及び委員会

当センターの管理・運営について協議するため設置されている主な会議及びそれぞれ専門的事項を分掌するため常設されている主な委員会は、次のとおりである。

### (1) 主なセンター内会議

名 称	目 的	構 成
幹 部 会 議	運営方針・経営戦略等の検討及びセンターの円滑な運営	病院長、事務局長、副病院長、看護部長、保健発達部長等
病院運営会議	業務等の円滑な連絡調整	病院長、事務局長、副病院長、看護部長、保健発達部長、各部門の代表等
科 長 会 議	診療に関する連絡・調整及び協議	病院長、副病院長、各診療科の長

### (2) 主な委員会

名 称	目 的
医療安全管理委員会	医療事故及び医療紛争の防止対策の協議
放射線安全委員会	放射性同位元素等の適正な管理・運営
感染防止委員会	感染防止及び公衆衛生管理の徹底
薬事委員会	薬事に関する業務の適性化及び円滑化
保険委員会	保険診療に係る諸問題の研究及び協議
栄養委員会	栄養管理及び給食運営の適正化
就学委員会	入退院児の就学に係る事項について協議
備品検討委員会	備品の適正な選定
契約業者等選定委員会	契約の相手となる業者の適正な選定等
図書委員会	図書の整理及び運営の円滑化
倫理委員会	医療及び医学に関する倫理的審議・検討

## 8 特別支援学校との連携

当センター開院と同時に、隣接して県立岩槻養護学校が開校した。養護学校は、当センターに入院している腎臓、心臓、整形、血液などの慢性または長期の治療が必要な小・中学生を対象に、一般の小・中学校に準じた教育を行っている。

21年4月に県立岩槻特別支援学校に校名変更したが、引き続き、相互の連携が円滑に行われるよう日々の連絡を行うほか、次の会議を設置している。

- (1) 教育連絡協議会（病院と学校のそれぞれの年間計画や整備計画及び両者の連携の基本的事項などを審議する。）
- (2) 就学委員会（入退院児の就学に係る事項について協議する。）
- (3) 学校病棟連絡会（行事予定などの情報交換を行い、具体的な連携のあり方を検討する。）
- (4) 生活委員会（子供の指導のあり方を追及するため、指導事例の発表及び意見交換を行う。）
- (5) 医療研修会（医師の指導のもと、特別支援学校職員の医療的理解を深める。）
- (6) 進路指導連絡協議会（中学部卒業後における進学等の協議を行う。）

また、遠足、修学旅行などの野外活動についても、患児が参加できるよう積極的に協力している。